

2024年 活動計画案

2024年6月21日

一般社団法人 EMoBIA (エモビア)

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 九州アカデミーITS研究部会活動
7. 2024年度 取組み体制
8. 活動計画 2024年度活動計画表

一般社団法人EMoBIAについて

MISSION

地域公共交通を始めとするモビリティサービスを対象に、最先端ITS・MaaSを活用した研究及び事業開発等と普及促進を図ることで、**地域社会における安全安心、快適性、利便性の提供、更にはグローバルな住み良いまちづくりの実現**を目指します。

会員企業間の協調・共創

活動内容



- ・調査研究及び開発
- ・ビジネスモデルの発見・発明・創出
- ・データと先端技術による地域課題対策・まちづくり
- ・人材交流・育成・協業
- ・AI・画像処理技術者育成
- ・国際フォーラム招致
- ・国際協力・協業 等

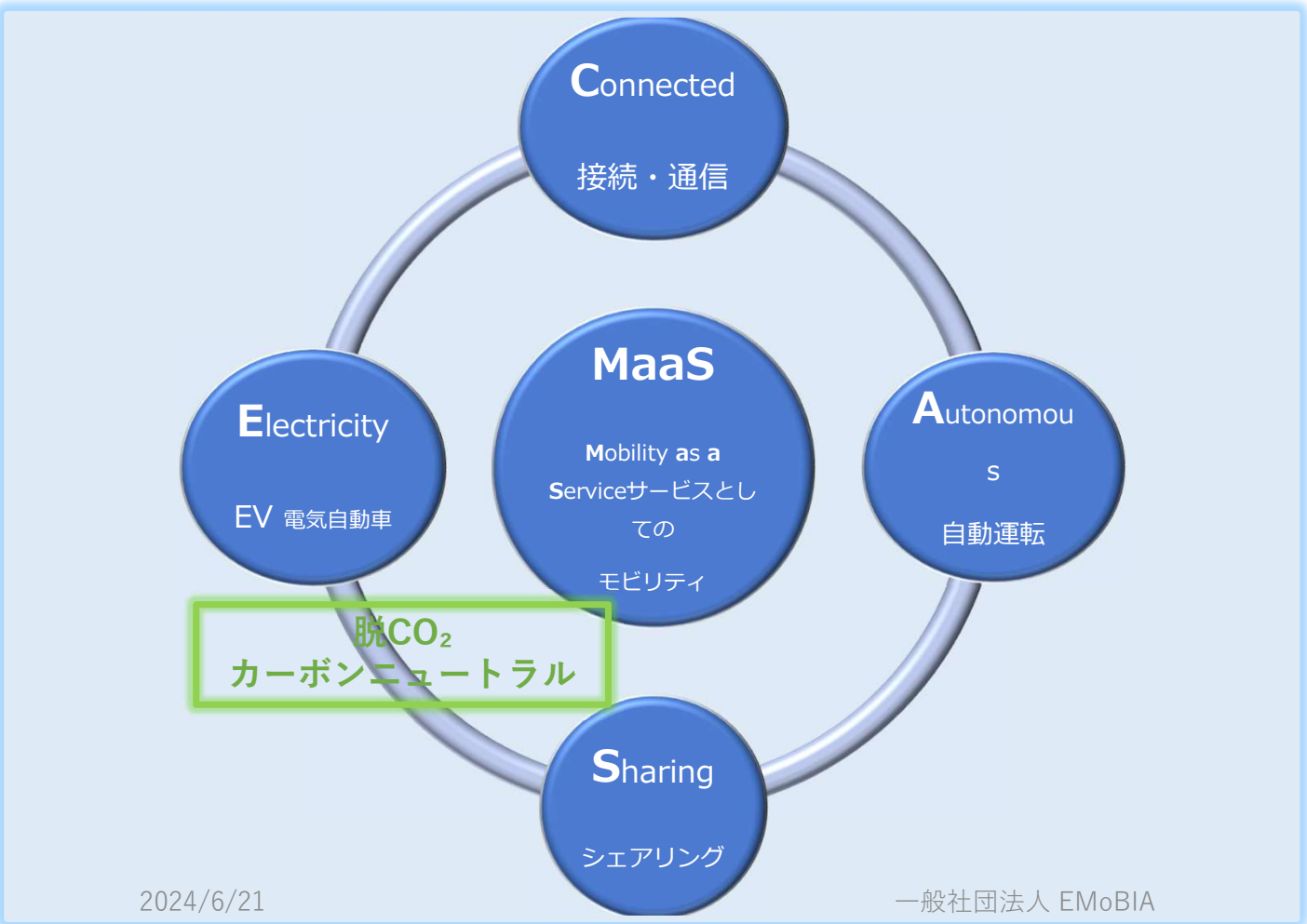
外部団体との連携

ITS・MaaS最新情報の共有

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 九州アカデミーITS研究部会活動
7. 2024年度 取組み体制
8. 活動計画 2024年度活動計画表

背景：国内外の動向① ITSの大変革
世界のモビリティ取り組み：CASE, MaaS



2024/6/21

一般社団法人 EMOBIA

CASE 実現の鍵、ソフト・NWが握る
ソフト主導車両 SDV

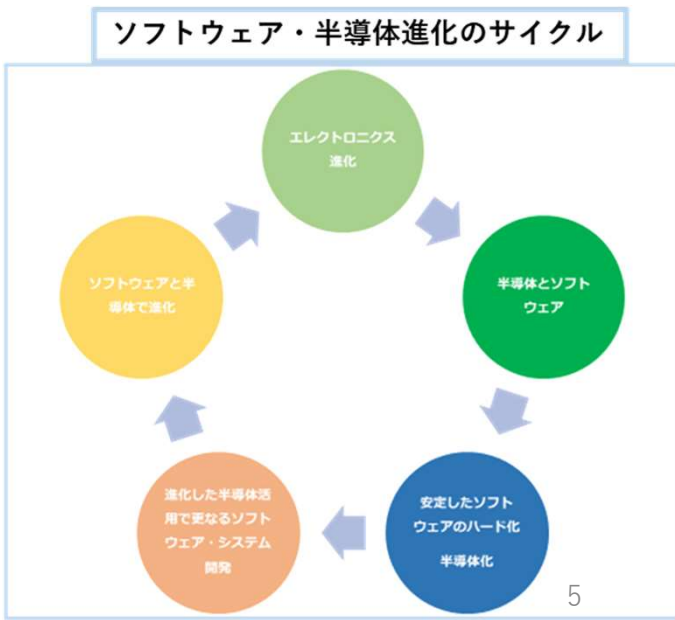


車1台のコストの内、ソフト・NWの割合は50%へ（2030年）



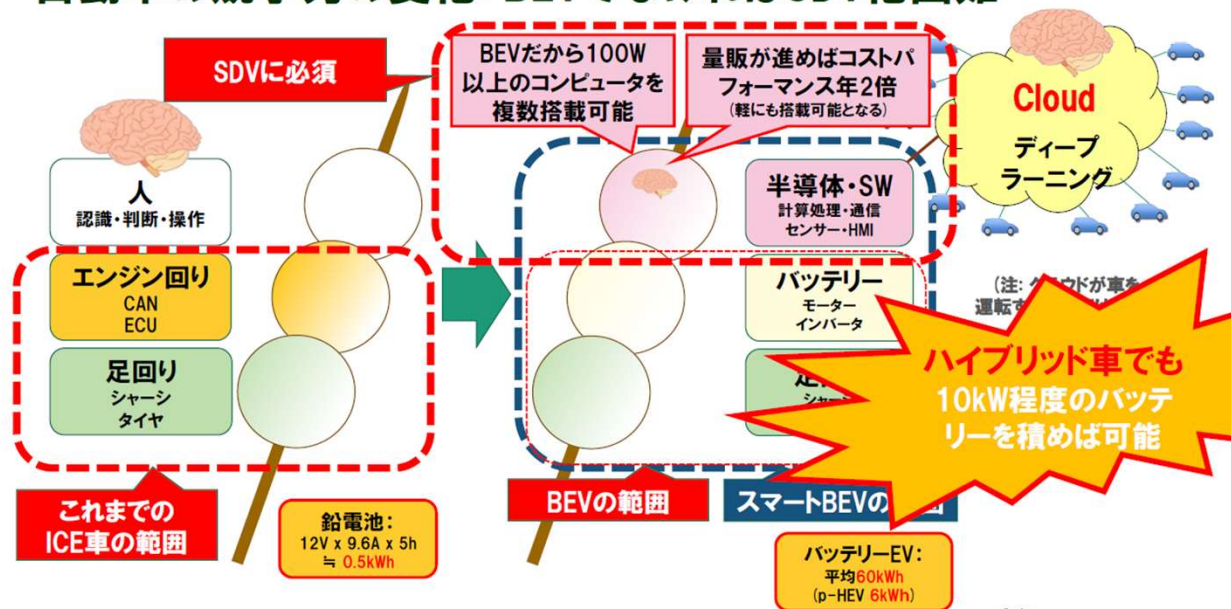
ラックスリサーチ調査（米国）

ソフト・NWに強い異業種・新興企業がCASEをリードする



自動車の競争力の変化: BEVでなければSDV化困難

普及する上での技術課題

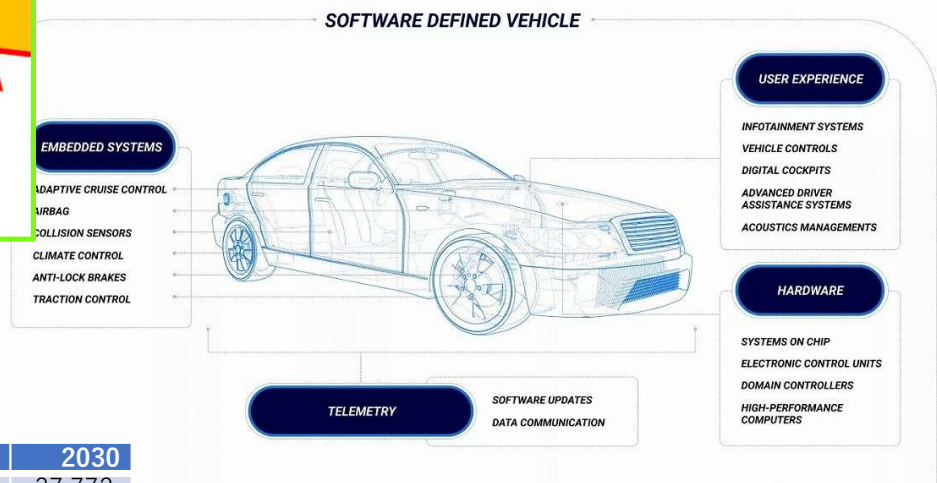


「SDV」=ソフトウェア・デファインド・ビークル、これは購入した後もどんどん機能を増やしたり、性能を高めたりできる車のことです。これまで車の価値を決めてきたような燃費や乗り心地、加速性能だけでなく、これからは、それ以外のものが車の価値を決めていく時代に入っていく

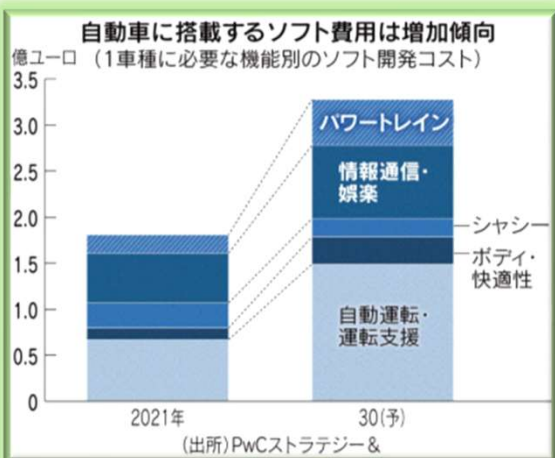
自動運転システム研究セミナー20230325 野辺継男EMoBIA技術顧問作成

EVの市場成長率が、2022年の前年比45%の成長が、2023年35%、その後一律に下がり、2030年で7%まで成長率が落ちて、全世界の自動車出荷量に対するEVの比率は40%まで拡大します。その後、EVと非EVはある比率で一定化すると思われます。

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
EV	6,993,252	10,140,216	13,689,291	17,522,292	21,447,286	25,290,640	28,916,306	32,232,659	35,190,018	37,772,977
非EV	70,709,549	62,289,896	71,868,778	69,193,680	66,442,261	63,788,364	61,368,252	59,273,769	57,554,816	56,227,023
TTL	77,702,801	72,430,111	85,558,069	86,715,972	87,889,547	89,079,004	90,284,558	91,506,428	92,744,834	94,000,000
比率	9%	14%	16%	20%	24%	28%	32%	35%	38%	40%
EV台数伸率	2024/6/21	45%	35%	28%	22%	18%	14%	11%	9%	7%



野辺継男EMoBIA技術顧問作成



ホンダ、ソフト
人材倍増
トヨタは900人
再教育
電動化の競争

nikkei20230530

- ・電動化や自動運転が普及すると、車の競争力はハードよりもソフトが左右する。
- ・「ソースコード」と呼ばれるコンピューターに指示を与える文字列はすでに **1 億行を超えた**。
- ・車載ソフトが生み出す利益の規模は21年の100億ドル（約1兆4000億円）から
35年には260億ドル（3兆6400億円）になる
- ・ソフト重視のクルマづくりで先行する米テスラは、好採算なソフト販売で収益力を高め、
1台当たりの純利益はトヨタの約5倍稼ぐ。
- ・ソフトを収益につなげる仕組みづくりも重要となる。

自動車業界でソフト人材の 獲得競争が進む

ホンダ	協業先を含めて2倍の 1万人に
トヨタ 自動車	25年までに9000人を再教育
日産 自動車	年間100人規模で養成
米GM	技術部門の報酬体系をIT大手 と同水準に
デンソー	部品技術者1000人を25年 までに転身
独 ボッシュ	世界40万人の全社員を 再教育

更に、エヌビディアのGPU等、
AI、データセンターの急拡大等
でソフト人材の競争激化

ホンダとSCSKが提携 ソフト技術者1000人確保へ

20230708

SCSK:住商コンピューターサービス株式会社

2024/6/21

EMoBIA



新車販売台数におけるBEV・PHEV比率（2022）

国名	EV普及率	国名	EV普及率
ノルウェー	88%	中国	2023年31.6% ← 29%
アイスランド	70%	ニュージーランド	13%
スウェーデン	54%	イスラエル	13%
デンマーク	39%	カナダ	9.4%
フィンランド	38%	韓国	9.4%
オランダ	35%	アメリカ	7.7%
ドイツ	31%	オーストラリア	5.1%
ベルギー	26%	日本	3%
スイス	25%	インド	1.5%
イギリス	23%	トルコ	1%
オーストリア	22%	ブラジル	1%
ポルトガル	22%	メキシコ	0.9%
フランス	21%	チリ	0.5%
イタリア	9%	南アフリカ共和国	0.2%
スペイン	8.9%		
ギリシャ	7.9%		
ポーランド	6%		
ヨーロッパ全体	21%		

背景：国内外の動向②

世界のEV急拡大

EVは走るエッジコンピュータ：データを高効率・高速処理し利活用

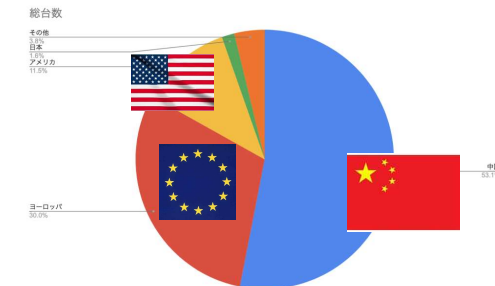
2023年 1370万台／8163万台=16.7% BEV 950万台／8163万台=11.6%
2022年 1020万台／7285万台=14.0%

市場シェアが16%を超えると、
非使用者は「自分も購入したい！」と思う

世界の新車販売台数に占める電気自動車
(BEV・PHEV*)
の比率は、2023年時点で16.7%

2023年

中国は世界最大の自動車市場
中国の自動車世界販売台数
3009万台／8163万台 = 36.8%



世界のBEV・PHEVの総台数シェア

2024/6/21

一般社団法人 EMOBIA

テスラの「カイゼン」 トヨタが学ぶ側に 一時提携、工場取得が成長の土台に 創業20年、逆張り戦略で関係逆転

Nikkei2030702 + α

電気自動車（EV）大手の米テスラがEV最大手に上り詰める土台になったのは、2010年のトヨタ自動車との提携。
数年で解消トヨタから工場と量産技術を手に入れた。それから13年。今度はトヨタがテスラの生産技術を取り入れる。
2社の関係は逆転した。

トヨタの部材点数175超→テスラは、一体成形し、従来の171点から2点に抑えている。By 3Dプリンター・超大型成型機
2020年発売の「モデルY」などで採用し、1台あたり平均原価を半分



テスラー方式、トヨタ2026年に市場投入予定

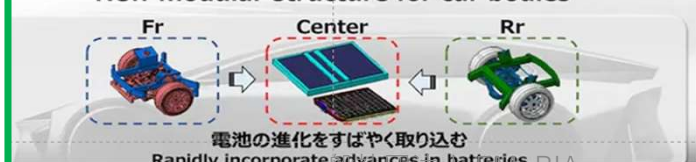


?

EV部材：
中国EV・テスラEVで標準化



車体の新モジュール構造
New modular structure for car bodies

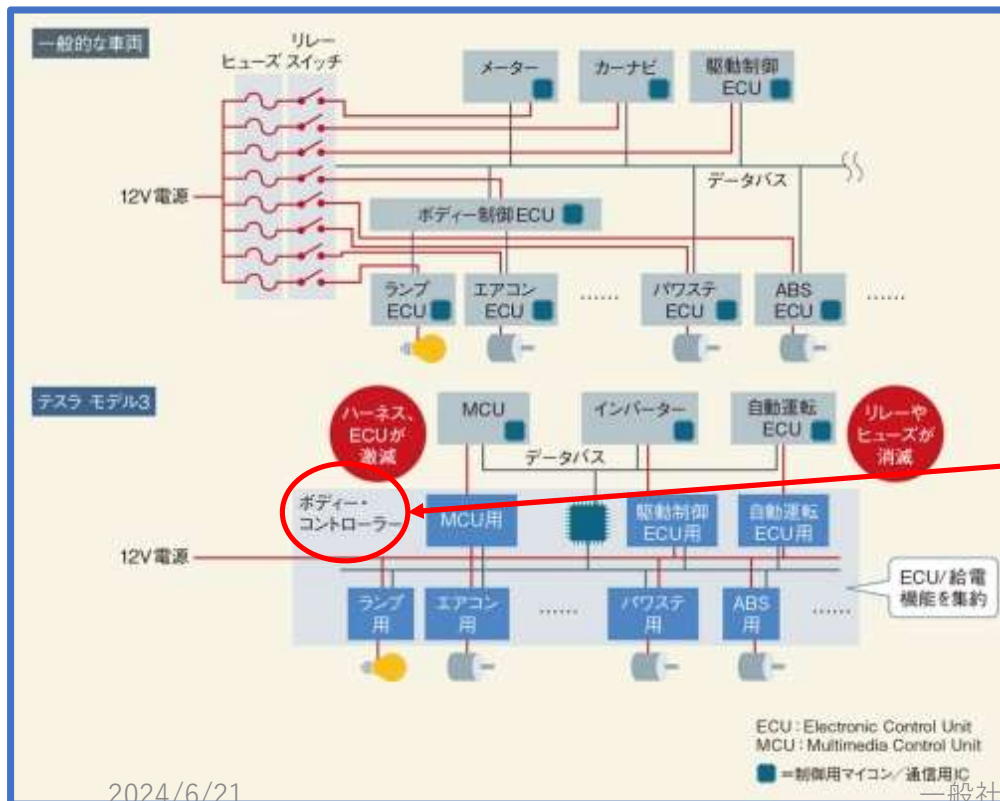


テスラの大胆なイノベーション 分散したECUを集中・統合：ハーネス・ECU激減、リレー・シューズ消滅

XTECH20200427+α

テスラのEV「モデル3」には「ボディー・コントローラー（BC）」と呼ぶ基板群があり、車両に散らばるECU（電子制御ユニット）を集中させた部品。一方、トヨタの車両には、ECUが多数搭載されている

ECUとは、Electronic Control Unitの略称で、エンジンの作動制御を電子的に行う車載マイクロコンピューターのことです¹。トヨタの車両には、ECUが多数搭載されている。



分散したECUを集中・統合：ハーネス・ECU激減、リレー・シューズ消滅
一般的な自動車の車両では、機能ごとにECUが用意される。各ECUは相互通信のために、CANやLINのインターフェース、ECUに接続されるアクチュエーターへの電力供給を制御するためのマイコンや電源回路が搭載される。また、12V系の電源も別の系統で提供される。

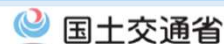
テスラのモデル3では、分散していたECUを電源供給も含めてボディー・コントローラーに統合した。（図：日経クロステックが作成）

背景：国内外の動向③ 自動運転の動向：自動運転の実現に向けた取り組みについて

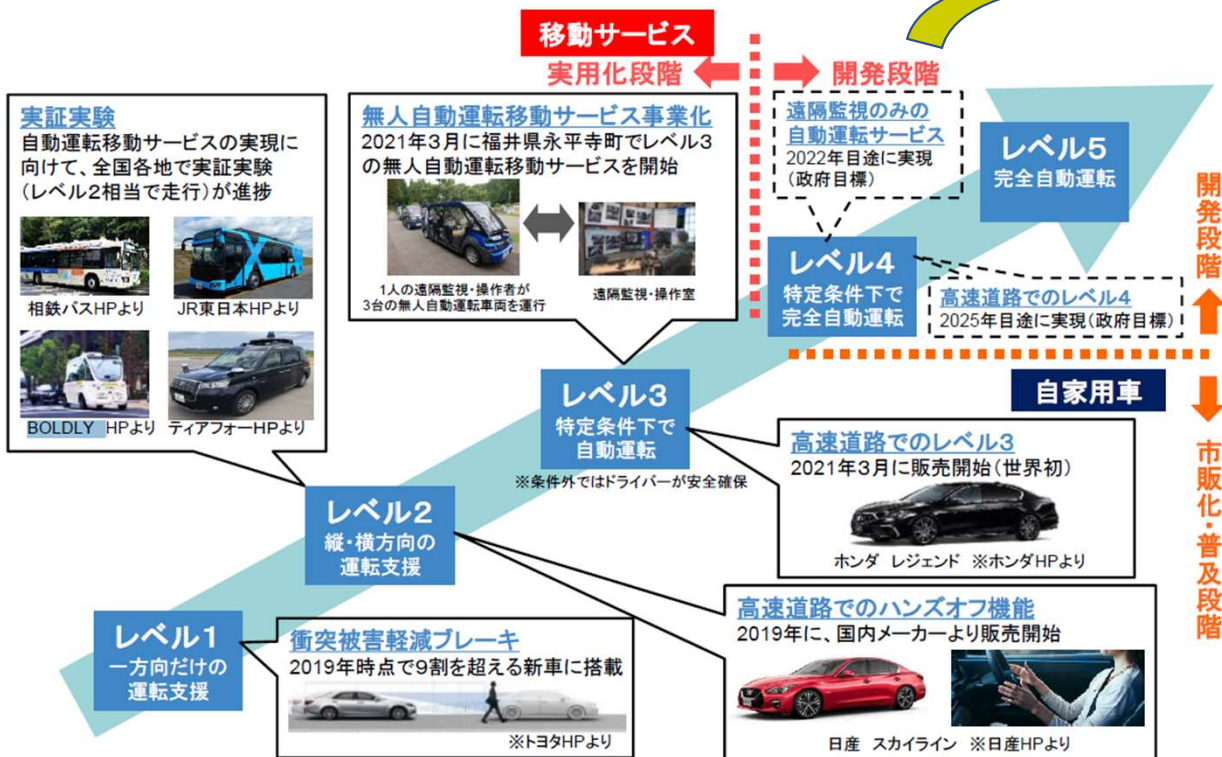
令和4年3月22日（火）国土交通省自動車局

令和4年3月22日（火）国土交通省自動車局
自動運転戦略室長 多田善隆

自動運転技術の現状と政府目標



自動運転技術搭載車の開発、実証実験、実用化が計画に従って着実に進められている。



世界の動向

自動運転の動向

AV ? → EV ⇒ AV

1月3日（93）

■ CES2023、自動運転バブル崩壊後、現実主義に戻る

➤自動車会社の幹部は、使える資金が限られているため、AVを犠牲にしてEVにリソースを投入している。

政府目標

【移動サービス】遠隔監視のみ（レベル4）の移動サービスの実現に向けた取組 国土交通省 経産省・国交省プロジェクト

【政府目標】

限定エリアでの遠隔監視のみ（レベル4）自動運転サービスを実現（2022年目途）

遠隔監視・操作型（レベル3）自動運転サービスの実現

2021年3月、自動運行装置搭載車（レベル3）として認可（永平寺町）



1人の遠隔監視・操作者が3台の無人自動運転車両を運行



車両に福井県版図柄入りナンバープレートを装着



遠隔監視・操作室

遠隔監視のみ（レベル4）自動運転サービスの実現に向けた取組

廃線跡等の限定エリアで、低速車両、遠隔監視のみ（レベル4）自動運転サービスを実現

<取組>

➤ 車両、システムの高度化

➤ 事業モデルの構築

➤ 遠隔監視での1:Nの拡大に向けた実証等

2024/6/21

一般社団法人 EMOBIA

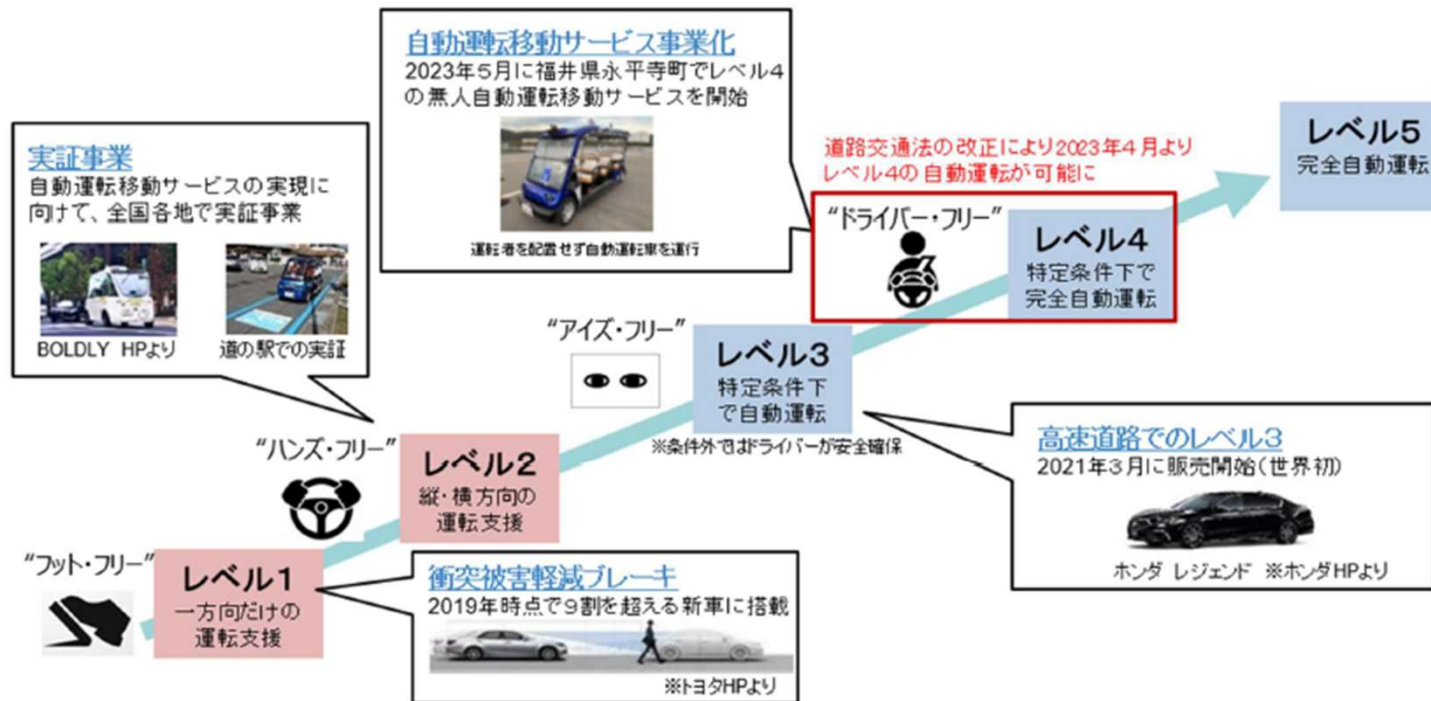
11

①自動運転のレベル分け

- 自家用車についてはレベル3を実現し、移動サービスについてはレベル4を実現するなど着実に技術が進展。
- 今後は、レベル4の普及拡大が目標

【政府目標】※ 2022年度目途 レベル4移動サービスの実現 ⇒ 2025年度目途 全国50か所に拡大
2025年度目途 高速道路レベル4の実現

※デジタル田園都市国家構想総合戦略(2022年12月閣議決定)、
新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ(2022年6月閣議決定)

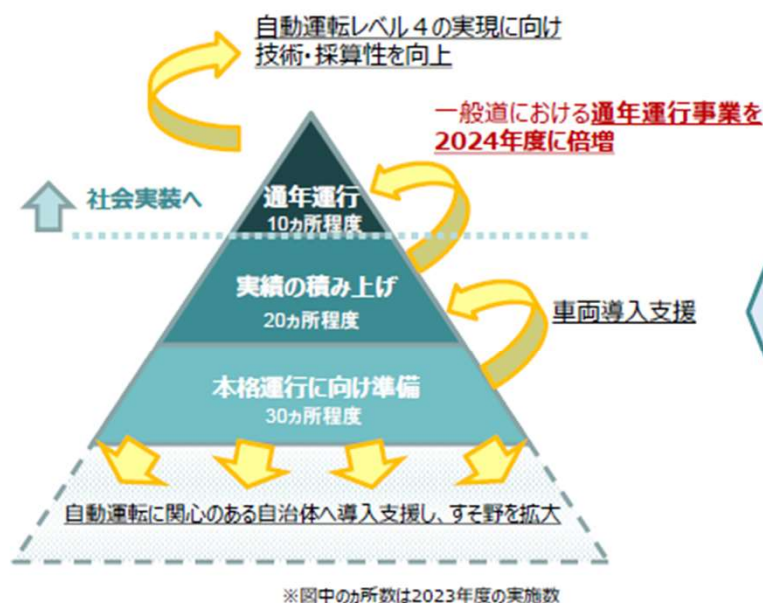


④地域公共交通における自動運転の推進

- 2025年度目途 50カ所程度、2027年度 100カ所以上の目標を実現※ するべく、地方公共団体が行う社会実装に向けて自動運転の取り組みを支援。

※デジタル田園都市国家構想総合戦略(2022年12月閣議決定)

➡ 全国各地で「いつでも・気軽に自動運転バス・タクシー」に触れ、地域の住民から「見える」自動運転の導入を促進



走行環境整備 (道路インフラ)



「路車協調システム」等の走行環境整備を併せて実施

④地域公共交通における自動運転の推進

- 地域づくりの一環として行うバスサービス等について、自動運転レベル4の社会実装・事業化を後押しするため、地方公共団体が実施する自動運転の取り組みを支援。

＜対象事業者（イメージ）＞

地方公共団体（都道府県・市町村）及び道路運送事業者等

※ 将来的に「レベル4」の自動運転移動サービスの
実現が見込まれる者であること。



○事業のポイント

- ・ 自動運転による地域モビリティの構築、及び社会受容性の向上
- ・ 地域に根ざした自動運転の通年運行
- ・ レベル4の実現に向け、運転者が不在となることを前提とした技術の磨き上げ 等



＜対象事業のイメージ＞

- ・ 専用道などを用いたBRT自動運転移動サービス
- ・ 定時定路線型の自動運転移動サービス
- ・ 特定のポイント間で運行するデマンド型の自動運転移動サービス 等

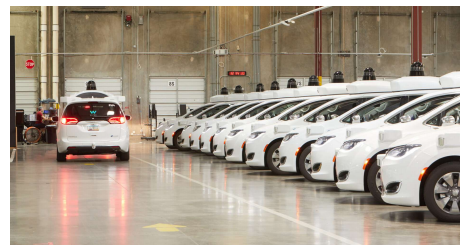
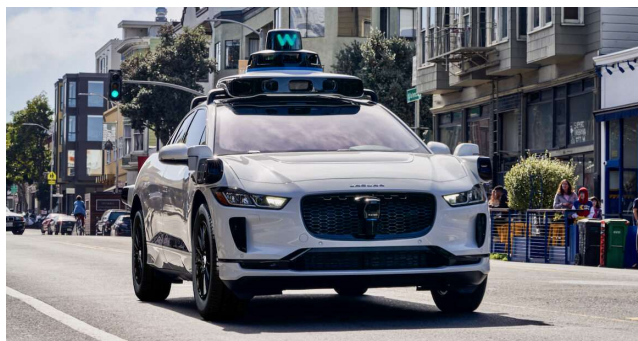
＜補助対象経費＞

- ・ 車両改造費
- ・ 自動運転システム構築費
- ・ リスクアセスメント、ルート選定等の調査費 等

背景：国内外の動向③ 自動運転の動向：自動運転の実現に向けた取り組みについて

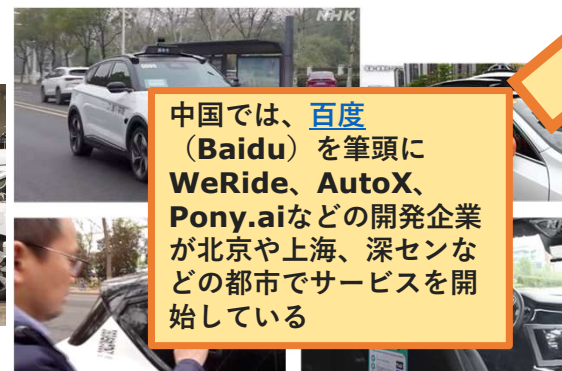


- ・米Waymoが米アリゾナ州で2018年12月、セーフティドライバーを同乗する形で有償の自動運転タクシーサービスを開始
- ・カリフォルニア州でもWaymoとGM・Cruiseが自動運転タクシーのサービス実証を始めるなど、エリア拡大が活発化



方向転換する中国の自動運転
「クルマ単体」から道路、社会と一体化した「車路協同」へ

「道路からの支援」で高まる安全性



中国では、百度 (Baidu) を筆頭に WeRide、AutoX、Pony.aiなどの開発企業が北京や上海、深センなどの都市でサービスを開始している



中国でTODへ
(公共交通指向の都市開発)

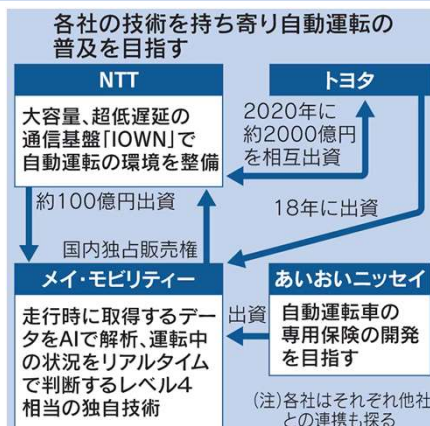
TOD (Transit Oriented Development)



NTTが米自動運転に出資 まずトヨタ車に活用、25年にも



IOWN :
(Innovative Optical and Wireless Network)構想
2024/6/21



自動運転・AIに使用する先端半導体を国内生産へ
TSMC熊本第2工場に7300億円補助 経産省 20240224

TSMC熊本第2工場、2027年稼働へ トヨタ2%出資
出資比率はTSMCが86.5%、ソニーグループが6%、デンソーが5.5%、トヨタが2%

第1工場 開所
20240224

第2工場 開所
2027



世界的でバッテリーEVの市場急拡大が進んでいる。

単なるEVではなく自動運転機能やエネルギーマネジメント機能を

搭載したSmart EVXともいうべき次世代のクルマに進化しており、

高度な半導体とソフトウェア・ネットワークが必須になっている。

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. **2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ**
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. **2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動**
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 九州アカデミーITS研究部会活動
7. **2024年度 取組み体制**
8. **活動計画 2024年度活動計画表**

2024年度 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ

－ 2021～2022年度の調査結果より －

背景：・九州域での次世代モビリティ取り組みが全国比で低い。・福岡県自治体アンケート調査・訪問交流・実態調査で自治体の深刻な交通課題・ニーズを明確にした。
・従来の限定的な自治体交流から広域の自治体交流拡大のニーズが強い
・クルマ大転換 *CASE時代の次世代モビリティ・MaaS取組みの最新情報をタイムリーにシェアし、自治体連携での支援・展開が求められている

自治体の深刻な交通課題

①収支改善・財政不足	57%
②運転手不足・二種免許	36%
③公共交通利便性の広報活動	36%
④交通空白地の解消	36%

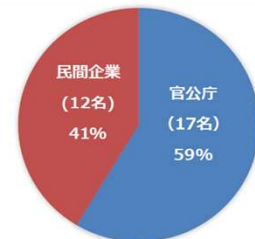
自治体のニーズと想定される解決策案

①自動運転	57%
②他地域事例の情報収集	43%
③他の自治体・企業との関係強化	35%

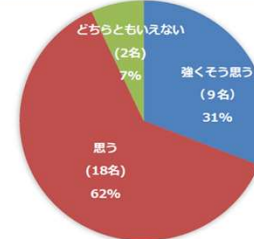
－ 2023年1月 ワークショップの調査結果より －

データ活用ワークショップ～データから考える地域の課題解決～参加者アンケート（一部抜粋）

Q.アンケート回答者属性（選択式）



Q.周りの人や同僚にこのプログラムを勧めたいと思いますか？



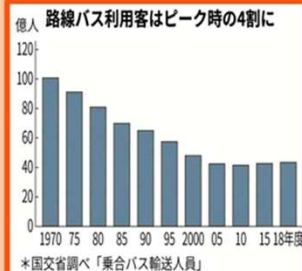
Q.本日のWSについて、感想や振り返りについてお聞かせ下さい。

- ・データ活用の基礎について学ぶことができた。
- ・ワークショップを通じて、データ活用から政策立案までの過程を体験することができた。
- ・ペルソナを設定の様なデータを見た。
- ・データから課題を抽出することができた。

Q.全体を通して、ご意見・ご感想などがあればお聞かせ下さい。

- ・とても有意義なワークショップだった。
- ・あまりこういう機会がないため新鮮で楽しく行うことができた。
- ・いろいろな意見が聞けるのは楽しかった。
- ・進み方などでワークショップだった。
- ・データの活用が深かった。

課題



2024/6/21

・2023/9/21-10月からのダイヤ改正で、福岡都市圏や北九州市を中心とする**32路線**で減便・廃止

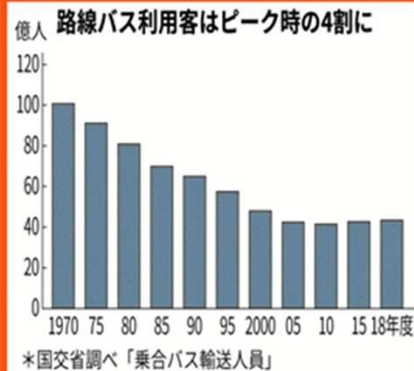
・2024/3/1福岡県内の路線バスについて3月18日以降の平日に**57路線**であわせて588便を減便

運転手不足が深刻

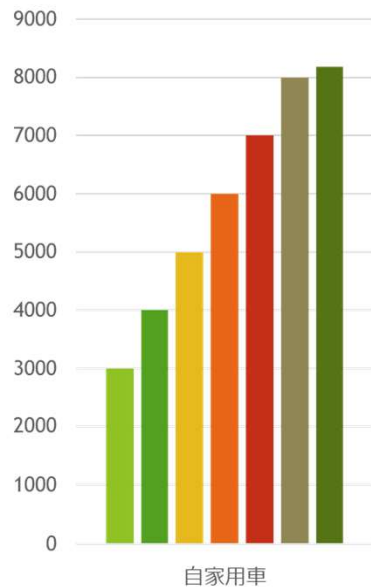
全国ではバス路線の廃止が相次ぐ。10～19年度の10年間で約1万2300キロメートルの路線がなくなった。



課題

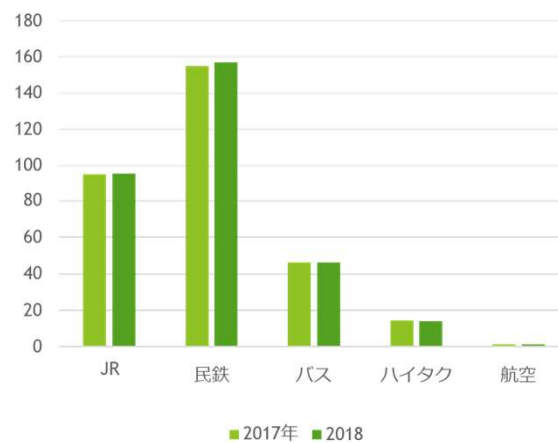


自家用車保有台数

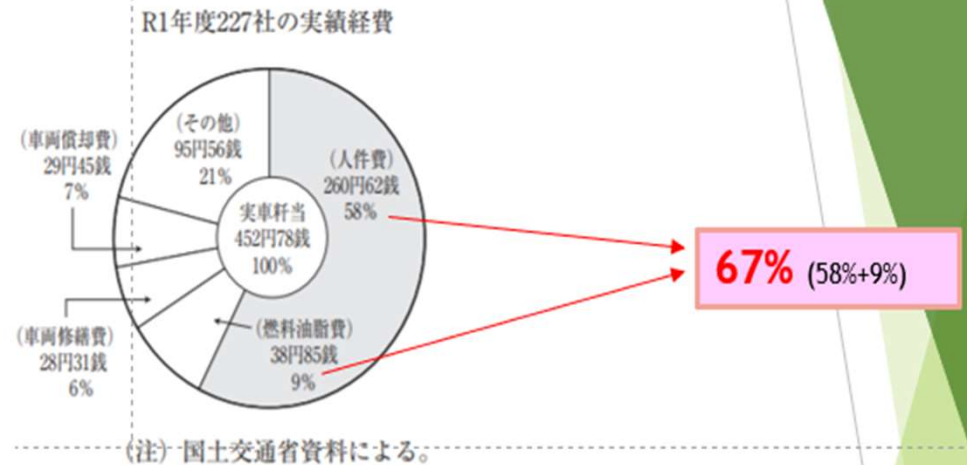


■ 1976年 ■ 1981年 ■ 1986年 ■ 1990年
■ 1995年 ■ 2013年 ■ 2020年
2024/6/21

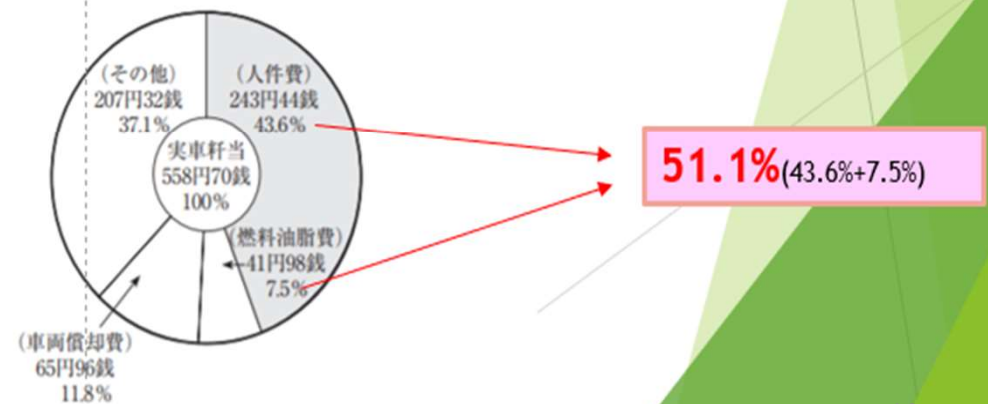
国内輸送機関別旅客輸送人員 (億人)



乗合バス実車キロ当たり経費及び構成比率 (民営)



R1年度410社の実績経費



2024年3月実施の自動運転システム研究セミナー 内容に関するアンケート結果

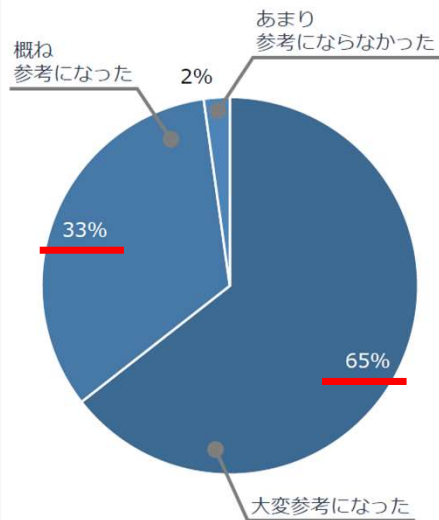
参考になった98%

セミナー内容に関するアンケート（3）

【Q2】講演について感想をお聞かせください。

（2）特別講演「国内外のL4自動運転動向、普及する上での技術的課題及び導入時の法整備、ルール等について」（回答数：45）

名古屋大学未来社会総合機構 客員教授 野辺 継男 氏



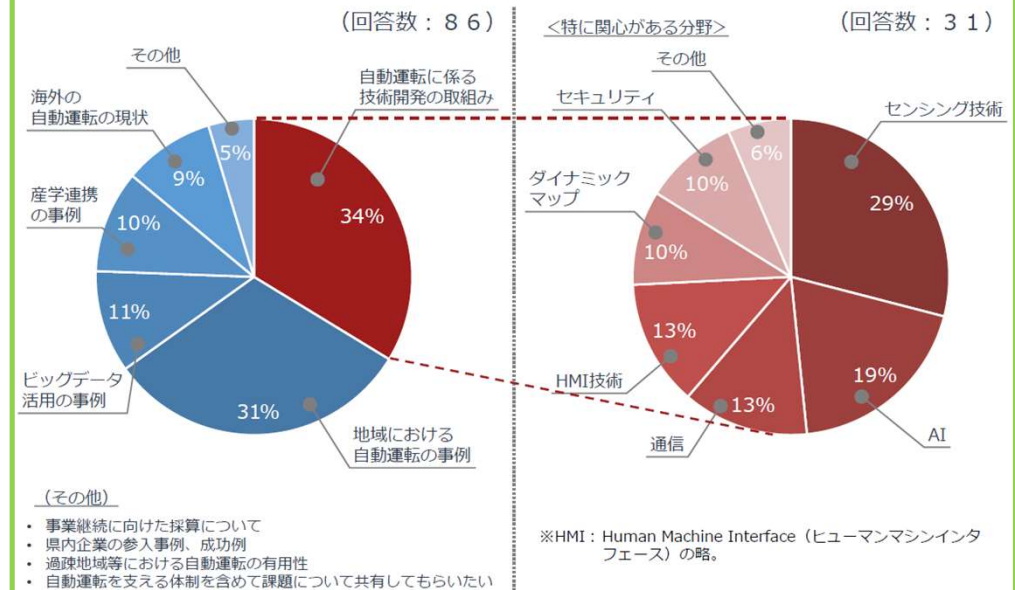
（主なコメント）

- ・ 海外の成功例、撤退例をまとめて報告いただき分かりやすかった。
- ・ "国内の動きが弱いことどうするのでしょうか？自動運転技能の検証、保証はどうするのでしょうか？" "ソフト"が正しいことの保証？updateソフトの保証？"
- ・ 国内メーカーの出遅れが良くわかったが、いかに早急に挽回していくかの提案があればさらに良かった。
- ・ 外国の動向とそのレベルの高さを理解できた具体的なテクノロジーについて興味深く学べた一方日本の出遅感を実感した。
- ・ 海外で実装されているシステムの状況を知ることができ非常に参考になった
- ・ 動画での解説が分かりやすく、どの部分が良かったのかとても分かりやすかった。
- ・ 少し難しかった
- ・ 海外の事例をご紹介いただき危機感を持ちましたが、とても良い刺激でした。
- ・ 文字の説明ではなく、動画での説明がわかりやすかった。
- ・ 少し時間が足りなかった印象。
- ・ 後半の話を中心にもっと話を聞きたかった。海外の最新事例と今後予想される技術革新について他では得られないレベルの情報を得ることができました。
- ・ WaymoやTeslaの自動運転がかなり進んでいると感じた。
- ・ グローバルのAD関連動向のキャッチアップになり、非常に参考になった。

関心のある今後のテーマ

セミナー内容に関するアンケート（6）

【Q3】今後のテーマとしてどのようなテーマに関心があるか教えてください。（複数回答可）



2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動

課題 従来取組みの限界

- ・自治体の交通課題解決には従来の取組に限界が生じている
- ・実証検証のほとんどが持続可能な社会実装に至らず、収支悪化、継続取組み困難な状況
- ・**新たなテクノロジーと新たな価値を生み出すビジネスモデルでの取組み**が求められている

ニーズ 情報収集・交流 への期待

- ・**新たなテクノロジーでの取組み**や他地域事例の情報収集・**新たなビジネスモデル等の情報収集・交流**、情報シェアなど、1自治体を越えた広域での効率的な取組みへの期待
- ・自治体も他自治体との連携・交流を期待
- ・各自治体とも取組みへの新たな財源確保が必要

課題・ニーズへの MaaS提案

- ・自治体、MaaS関連企業、県・官公庁各九州局、大学・研究機関連携の九州MaaSマッチング交流会
- ・データ利活用によるFS事業取組みで自治体の参加希望・期待が明確になった

2024年度活動 自治体交流拡大 支援強化

- ・九州MaaSマッチング交流会を継続的に開催、九州アカデミーITSモビリティ研究会連携（11大学）
- ・MaaSマッチング交流会を通じて期待されている自治体への支援を強化し、交流を拡大する

データ利活用 先端モビリティ

- 内容：・自動運転システム研究セミナー開催
・第22回 ITSシンポジウム 開催@熊本（12月）
・2025年福岡モビリティショー開催（12月 先端モビリティワールド提案事前検討活動
- 対象：**MaaS商品・サービス・技術を有する会員企業・大学・先端企業、九州域内の地方自治体**



目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 九州アカデミーITS研究部会活動
7. 2024年度 取組み体制
8. 活動計画 2024年度活動計画表

EMoBIA:データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組

2019年度 令和1年
自動運転システム研究セミナー



2020年度 令和2年

自動運転ビジネス研究セミナー開催：Zoom Webセミナー
2020年10月14日

主催：福岡県商工部自動車産業振興室、一般社団法人EMoBIA



2021年度 令和3年

2023年度 取組み概要・自治体の交通課題・ニーズ
2021-2023年度の取組みについて



自治体訪問
実態調査・交流
実施



2022年度 令和4年



2023年度 令和5年度 北部九州自動車産業グリーン
先端拠点推進会議・福岡県商工部
モビリティショー・自動運転システム研究セミナー



モビリティショー福岡県担当ブース

- 令和6年度活動計画について
活動計画案項目
- ① (継続)九州アカデミーITSモビリティ研究会の継続と拡大
 - ② セミコン熊本地区へのCASI等提案活動
 - ③ (継続)昨年に引き続き九州MaaSマッチング交流会を実施
 - ④ (継続)次世代モビリティ推進を担う人材を獲得、認定校への活動
 - ⑤ (継続)ITS技術(EV自動運転、CASE、MaaS)の推進・福岡県自動運転システム研究会セミナー開催支援
 - ⑥ (継続)福岡モビリティショー2025企画提案推進・福岡県展示場 EMoBIA展示ブース検討
 - ⑦ (継続)会員交流会(各社のソリューションとのコラボ推進)
 - ⑧ 異業種団体との交流会&勉強会(ZETAアライアンス、他)
 - ⑨ 国土交通省、R6年地域交通共創モデル実証事業提案
 - ⑩ ITSシンポジウム2025 in熊本参加(実行委員長:溝上先生)

令和5年度 九州アカデミーITSモビリティ研究会開催概要
開催 第1回～第5回

4月27日	九州アカデミーITSモビリティ研究会発起会
6月15日	第1回九州アカデミーITSモビリティ研究会
8月25日	第2回九州アカデミーITSモビリティ研究会
10月13日	第3回九州アカデミーITSモビリティ研究会
12月14日	第4回九州アカデミーITSモビリティ研究会
2月29日	第5回九州アカデミーITSモビリティ研究会



データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組

0. CASEトレンドとは？

- コネクティッド化、電動化、自動運転、シェアリング化などの産業構造を大きく変える可能性のある変化、いわゆる「CASE」トレンド到来により、自動車産業には事業モデルの変革が求められる。



令和5年度 九州アカデミーITSモビリティ研究会開催概要 開催 第1回～第5回

4月27日	九州アカデミーITSモビリティ研究会発足事前協議会
6月15日	第1回「九州アカデミーITSモビリティ研究会」発足
8月25日	第2回九州アカデミーITSモビリティ研究会
10月13日	第3回九州アカデミーITSモビリティ研究会
12月14日	第4回九州アカデミーITSモビリティ研究会
2月29日	第5回九州アカデミーITSモビリティ研究会

令和6年4月16日

一般社団法人EMoBIA
九州アカデミーITSモビリティ研究会

2024年3月25日開催

自動運転システム研究セミナー

令和5年度CASE推進研究会
自動運転システム研究セミナー

令和5年3月25日(月) 13:30～17:00
福岡県庁大会議室(2F) 401会議室
定員 100名
https://www.pref.fukuoka.jp/its/

自動運転「レベル4」解禁
・社会実装プロジェクトの取り組み強化
・EV自動運転バスの社会実装へ

福岡モビリティショー
福岡県会場で
EMoBIA展示ブース
2023年
12月23日～25日開催

2024年活動計画案

令和6年度活動計画について

活動計画案項目

- ① (継続)九州アカデミーITSモビリティ研究会の継続と拡大
・ライドシェア考察 ・自動運転必須機能研究 ・他 研究
- ② セミコン熊本地区へのCASE等提案活動
- ③ (継続)昨年に引き続き九州MaaSマッチング交流会を実施
- ④ (継続)次世代モビリティ推進を担う人材を獲得、認定校への活動
- ⑤ (継続)ITS技術(EV,自動運転、CASE, MaaS)の推進
・福岡県自動運転システム研究会セミナー開催支援
- ⑥ (継続)福岡モビリティショー2025企画提案推進
・福岡県展示場 EMoBIA展示ブース検討
- ⑦ (継続)会員交流会(各社のソリューションとのコラボ推進)
・EMoBIA次世代モビリティカオスMaP
- ⑧ 異業種団体との交流会&勉強会(ZETAアライアンス、他)
- ⑨ 国土交通省、R6年地域交通共創モデル実証事業提案
- ⑩ ITSシンポジウム2024 in 熊本参画(実行委員長:溝上先生)

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 九州アカデミーITS研究部会活動
7. 2024年度 取組み体制
8. 活動計画 2024年度活動計画表

令和5、6年度 九州アカデミーITSモビリティ研究会開催概要
開催 第1回～第6回

4月27日	九州アカデミーITSモビリティ研究会発足事前協議会
6月15日	第1回「九州アカデミーITSモビリティ研究会」発足
8月25日	第2回九州アカデミーITSモビリティ研究会
10月13日	第3回九州アカデミーITSモビリティ研究会
12月14日	第4回九州アカデミーITSモビリティ研究会
2月29日	第5回九州アカデミーITSモビリティ研究会
5月29日	第6回九州アカデミーITSモビリティ研究会

令和6年6月21日

**一般社団法人EMoBIA
九州アカデミーITSモビリティ研究会**

第22回 ITSシンポジウム2024@熊本

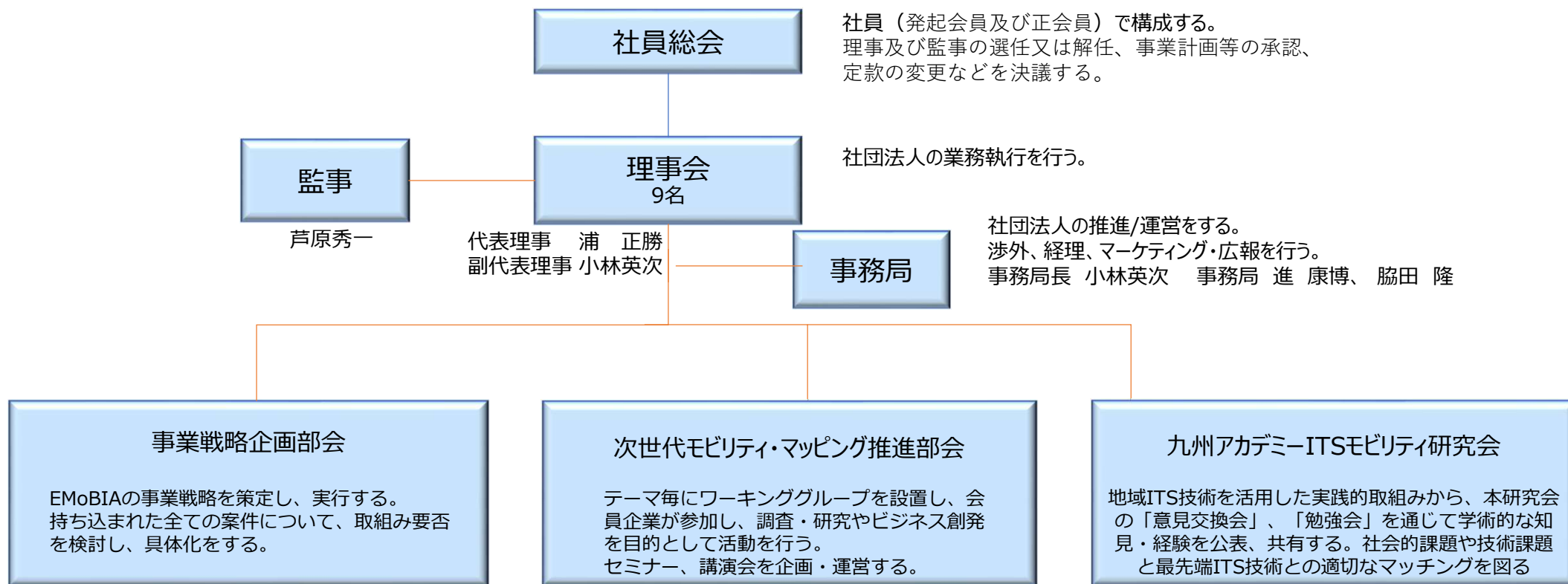
テーマ：暮らしを豊かにする移動サービスと人づくり

【会期】	2024年12月12日(木)～13日(金)
【会場】	熊本城ホール
【主催】	特定非営利活動法人 ITS Japan
【共催予定】	熊本大学
【協賛予定】	公益社団法人 計測自動制御学会 一般社団法人 交通工学研究会 公益社団法人 自動車技術会 一般社団法人 情報処理学会 一般社団法人 人工知能学会 一般社団法人 電気学会 一般社団法人 電子情報通信学会 公益社団法人 土木学会 一般社団法人 日本機械学会 日本交通心理学会 一般社団法人 日本ロボット学会 自動車技術会 モビリティ社会部門委員会 情報処理学会高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS)研究会 情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア研究会 電気学会ITS技術委員会 電子情報通信学会高度交通システム研究会
【実行委員長】	溝上章志 熊本学園大学 経済学部 教授
【プログラム委員長】	円山 琢也 熊本大学 大学院先端科学研究部 教授

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2024年度 取組み体制
7. 活動計画 2024年度活動計画表

2023年度 EMoBIA 組織体制



部会・研究会メンバー

事業戦略企画部会

部会長：浦 代表理事兼務
：パナソニックコネクト 岩尾範彦
：NTTデータ 平尾浩一 椎葉大地
：東京コンピュータサービス 長井孝行

九州アカデミーITSモビリティ研究会

座長：熊本学園大学 溝上 章志 教授

11大学 16名

次世代モビリティ・マッピング推進部会

部会長：PTVグループジャパン	端野良彦
：RYODEN	松村保明
：イントループ	木下泰孝
：ビーコンコミュニケーションズ	田中暁彦
：ゼンリン	吉村英樹, 古野豊起
：NTTデータ	椎葉大地
：RYDE	木下翔太
：DEGLO	松崎真典

順不同敬称略

理事・顧問について

代表理事

浦 正勝

副代表理事 兼 事務局長

小林 英次

理事

福田 晃
木下 泰孝

理事会メンバー

和田 宏
片桐 勇一郎
端野 良彦
岩尾 範彦

監事

芦原 秀一

顧問税理士

井村 幸男（税理士法人井村&パートナーズ）

特別顧問

天野 肇（ITS-Japan元専務理事）

増田 博行（一般社団法人日本道路建設業協会 副会長
兼専務理事 九州大学 客員教授）

名誉顧問

二橋 岩雄（元トヨタ自動車九州会長）

安浦 寛人（元九州大学副学長）

技術顧問

石 太郎（早稲田大学環境総合研究センター
参事・招聘研究員）

時津 直樹（インターネットITS推進協議会事務局長）

野辺 継男（名古屋大学 未来社会創造機構 客員教授）

森山 誠治（一般財団法人日本みち研究所（RIAS）専務理事）

牧野 浩志（一般財団法人国土技術研究センター（JICE）
道路政策グループ総括
都市・住宅・地域政策グループ総括 博士（工学））

今田 一典（元西日本高速道路株式会社 九州支社 調査役）

溝上 章志（熊本学園大学経済学部リーガルエコノミクス学教授）

一般社団法人EMoBIA会員

《正会員》4社

パナソニック コネクト株式会社
沖電気工業株式会社
株式会社NTTデータ 製造ITイノベーション事業本部第一製造事業部
株式会社PTVグループジャパン

《賛助会員》13社 1協会 1協議会

電気興業株式会社 九州支店
インターネットITS協議会
公益社団法人企業情報化協会（IT協会）
株式会社RYODEN デバイスシステム事業本部
みなと観光バス株式会社
ジョルダン株式会社
東京コンピュータサービス株式会社
株式会社i7
株式会社ゼンリン
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 九州支社
株式会社ディ・アイ・システム
アイティアアクセス株式会社
ジェットコネクト株式会社

《スタートアップ会員》 7社

BOLDLY株式会社	株式会社DEGLO
株式会社HROTTI	Hiyoku合同会社
株式会社eMoBi	それいけシステムコンサルティング株式会社
RYDE株式会社	

《特別会員》20組織

九州大学 スマートモビリティ研究開発センター
熊本大学
北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議
一般社団法人 JCoMaaS
一般社団法人筑後川プロジェクト協会
学校法人 君が淵学園 崇城大学
久留米大学 経済社会研究所
公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団
国立大学法人 大分大学 経済学部門
九州産業大学 地域公共交通運行管理支援グループ
長崎県公立大学法人
東京大学 大学院情報理工学研究科
九州大学大学院システム情報科学研究院 荒川・峯研究室
熊本学園大学
公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所
福岡大学工学部小野研究室
一般財団法人 みち研究所
一般社団法人 日本道路建設業協会
ZETAアライアンス
一般財団法人国土技術研究センター

《EMoBIA会員入会先》

一般社団法人 九州経済連合会
公益財団法人 九州経済調査協会
インターネットITS協議会
公益社団法人 企業情報化協会(IT協会)
一般社団法人 JCoMaaS
一般社団法人 スマートシティ・インスティテュート(SCI-Japan)
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
一般社団法人 九州MaaS協議会

目 次

1. 一般社団法人EMoBIAのミッション
2. 取組み背景：国内外の動向
① ITSの大変革 ②世界のEV急拡大 ③自動運転の動向
3. 2024年 取組み背景・自治体の交通課題・ニーズ
データから考える地域の課題解決 WS参加者アンケート分析
4. 2024年度 課題・ニーズへの対策検討・取組み活動
5. データと先端技術によるスマートモビリティチャレンジ in 九州の取組
6. 2024年度 取組み体制
7. 活動計画 2024年度活動計画表

2024年度 活動計画表案

定例会議

勉強会

事業推進

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
19. 理事会 部会	10. 理事会 部会	7. 理事会 部会 ▲ 21 総会	5. 理事会 部会	9. 理事会 部会	6. 理事会 部会	11. 理事会 部会	8. 理事会 部会	6. 理事会 部会	10. 理事会 部会	7. 理事会 部会	7. 理事会 部会
理事会(毎月)・事業戦略企画部会・次世代モビリティ・マッピング推進部会											
18コンベ 連携AC部会準備	九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲	九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲			10 親睦交流 コンベ	九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲		九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲		九州アカデミーITS モビリティ研究会 ▲	
開催日 生検討	「自動運転・ライドシェア・他」会員企業セミナー勉強会(年2回実施,自治体含む)										
立上検討	EV・自動運転技術勉強会										
← 3/25 県受託 事業 自動運 転シス テム研 究セミ ナー 開催 フォ ロー アップ	← アンケート分析 今後策 検討	▲ 21日 社員総会後 新会員企業紹介 会員交流会	 次世代モビリティ・マッピング推進部会			▲ EV・ 自動運転 MaaS マッチング 交流会	 福岡県 EV・ 自動運転 システム 研究セミ ナー			2025年12月開催予定 福岡モビリティショー福岡県会場 EMoBIA展示ブース事前検討	
・九州空飛ぶクルマフォーラム参加 ・CASE・MaaSビジネスモデル付加価値検討 ・公共交通自治体課題・特定地区検討 九州アカデミーITSモビリティ研究会 ・一般社団法人九州MaaS協議会加入 各部会活動参加 ・JR・ローカル鉄道車両EV応用展開検討Pjの共創											
セミコン熊本地区へのCASE等提案活動 12月 ITSシンポジウム2024 in 熊本 参画(実行委員長:溝上先生)											

北部九州自動車産業グリーン
先端拠点推進会議・県商工部
自動運転システム研究セミナー

